



子ども食堂で調理を手伝う朝川代表。



埼玉県入間市内で運営されている「子ども食堂」の様子。

社会貢献 〈ホール編〉

子ども食堂普及に向け、開設・運営支援組織を設立。大きな成果に

埼玉 (株)USEI

同社では地元での子ども食堂普及に向け、開設・運営を支援する専門組織を自治体及び関連 NPO 法人との協力体制のもと設立。

多くの人々の力を結集させるそのプログラムにより、大きな成果に結びつけています。

埼玉県内を中心に 8 店舗を展開する(株) USEI では、本社が所在する入間市内の子ども食堂の普及に向けた活動に傾注。他に類を見ない優れた取り組みとして業界内外から注目を集めています。

同社代表取締役社長の朝川康誠氏はその詳細について次のように話してくださいました。

● 子ども食堂の開設・運営を支援する専門組織を設立



代表取締役社長
朝川康誠 氏

「全国各地で子供食堂が急速に増えつつある中、ここ埼玉県内での動きが近隣の東京、神奈川などと比べ非常に鈍い状況となっていたことが活動を開いています。

子どもの孤食の解消や居場所づくりなど、重要な役割を果たす子ども食堂ですが、すべての子どもたちが利用できるようにするために、各地域にきめ細かく食堂が配置されなければなりません。子どもたちは何キロも歩いて食堂までいくことはできないからです。

そのことから、食堂数の大幅な拡大に向けた実効性の高い施策を策定することが必要と考え検討を始めるに至りましたのです。

しかし、当時は子ども食堂を増やすための仕組みはもうろん、寄付先すらなかったので、私たちは、昨年 2 月に子ども食堂の立ち上げと運営を支援する専門組織、「子ども食堂ネットワーク」を設立したのです。

『子ども食堂ネットワーク』をいるま』は当社と入間市、関連 NPO 法人との連携のもとで運営され、運営資金は当社が拠出しています。

そして入間市内で子ども食堂を始めたいと思っている方々に対し、活動資金の助成と運営ノウハウの提供を行っています。

子ども食堂を開設したいと思つている方は多くいらっしゃいますが、いざ実行しようとしたとき、何をどうすればよいのかが分からず、躊躇してしまうといったケースが少なくありません。

また、当社からの支援は資金面だけに止まりません。

私の含めた役員と従業員が子ども食堂に赴き、調理や清掃、子どもたちと遊んだり勉強を教えたりと、様々な手助けを行っています。

経済的支援だけでは一過性のものになりかねませんが、このように様々な



今年度の全日本社会貢献団体機構主催「社会貢献大賞」において「社会貢献賞・組合員ホール部門・優秀賞」を受賞しました。本年7月に行われた表彰式の模様。

ただいた際にも、自分たちの地元でも始めてみたいなど、多くの参加者に興味を持つ

ていただき、さらなる拡大への可能性を感じることとなりました。

私たちもそのような声に触れる度、この活動の意義を改めて実感し、自信を深めています。

さらに、入間市との関係もこの活動を進める中で、より緊密なものとなり、今では他分野での支援活動においても互いに協力し合うようになるなど、新たな展開につながっています」

●子どもを取り巻く問題の解消に向け活動範囲の拡大へ

そして朝川代表は今後の抱負について触れ、次のように結ばれました。

「入間市内における私たちの取り組みをモデルケースとして他地域でも同様の活動が行われ、そ

今回ご紹介した同社の取り組みは、その優れた内容が高く評価され、今年度の全日本社会貢献団体機構主催「社会貢献大賞」において「社会貢献賞・組合員ホール部門・優秀賞」に輝いています。

同社の今後ますますの活躍により、子ども食堂の普及が一段と加速するとともに、子どもを取り巻く様々な問題が解消していくことを願わずにはいられません。



(上) 大勢の子どもとその親たちで賑わう食堂内の模様。
(下) 旬の素材を活かした献立が用意されています。



人々の力を結集させる仕組み作りができたことで、子ども食堂の普及促進に向け継続した効果が生まれること

となりました。
そしてその結果、昨年末までに新たに4軒の子ども食堂が誕生することになりました」

このようにしてスタートした同事業は、多分野の人々から賛同を得ているようです。この点についても朝川代表もなっています。

「子ども食堂を運営する市民ボランティアの方々は皆さん子どもが好きで、それが事業を始める最大の理由にもなっています。ですから、子ども食堂を運営する中で、日々子どもたちが幸せになれる、それが子ども食堂のすばらしいところであり、ボランティア活動の理想形ともいえるものだと実感しています」

このように、支援される子どもたちと支援するボランティアの双方が幸せになる、それが子ども食堂のすばらしいところであり、ボランティア活動の理想形ともいえるものだと実感しています。さらに、『「子ども食堂ネットワークいるま』の活動趣旨については、多くの方々から賛同をいただいている。以前、多業種の企業経営者が集まる会合でこの活動について紹介させてい

●皆が幸せになるボランティア活動の理想形

このようにしてスタートした同事業は、多分野の人々から賛同を得ている

ようです。この点についても朝川代表曰く、

「子ども食堂を運営する市民ボランティアの方々は皆さん子どもが好きで、それが事業を始める最大の理由にもなっています」

ですから、子ども食堂を運営する中で、日々子どもたちが幸せになれる、それが子ども食堂のすばらしいところであり、ボランティア活動の理想形ともいえるものだと実感しています」

このようにしてスタートした同事業は、多分野の人々から賛同を得ている

ようです。この点についても朝川代表